

# JAMA電子情報フォーラム2018

## 電子情報企画部会 活動概要

一般社団法人 日本自動車工業会

電子情報委員会  
電子情報企画部会  
部会長：今田 毅

2018年2月16日

1	自工会と電子情報委員会の紹介
2	自動車業界を取り巻く環境認識
3	電子情報企画部会の活動方針
4	ご案内

# 自工会と電子情報委員会の紹介

設立：1967年 4月 3日

目的：本会は、我が国の自動車工業の健全な発達を図り、  
もって経済の発展と国民生活の向上に寄与することを  
目的とする。

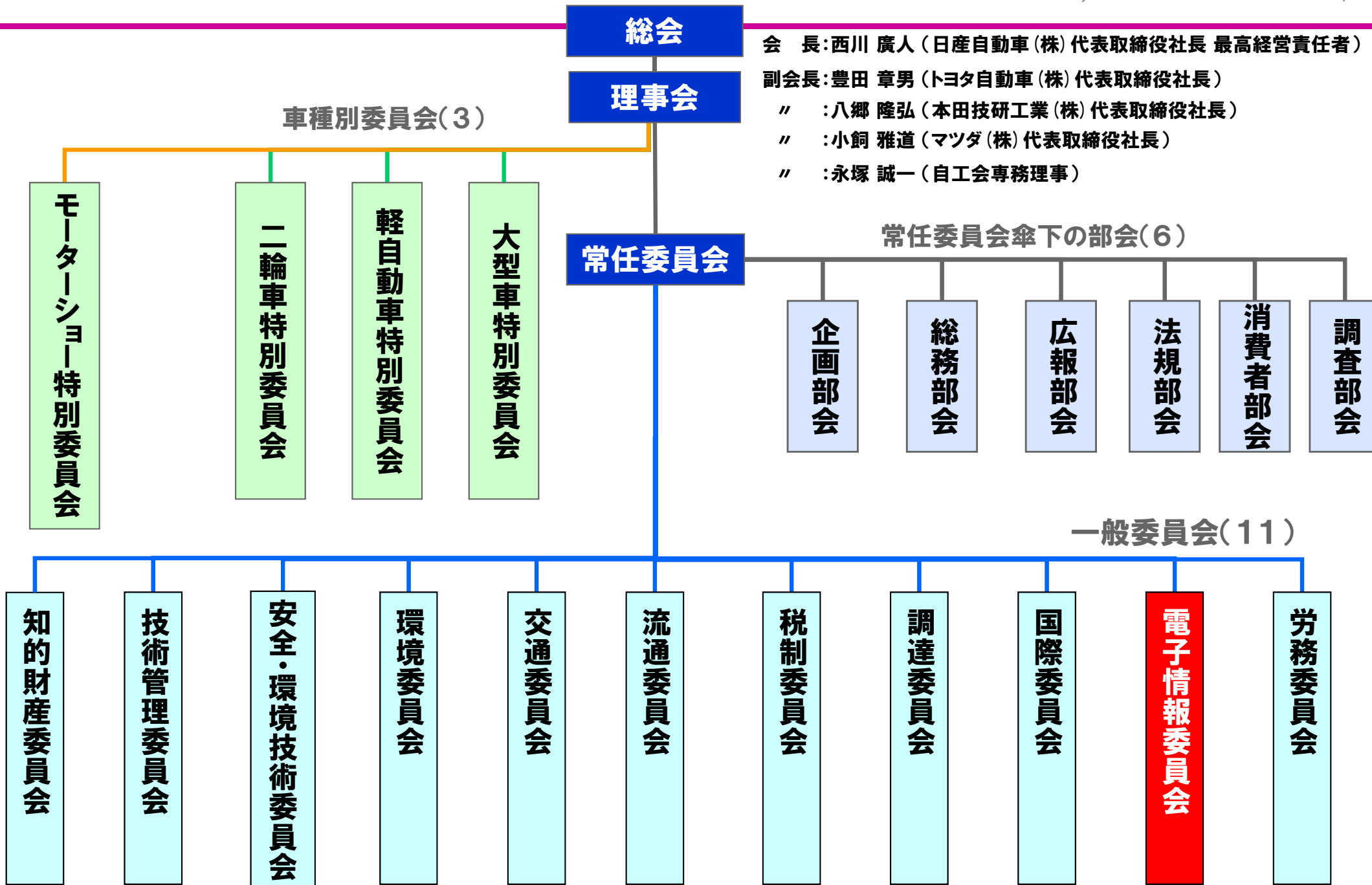
- 事業：
- (1) 自動車の生産、輸出及び市場に関する調査、研究並びに各種統計等関連資料の作成及び刊行
  - (2) 以下の事項に関する調査、研究及び提言
    - [1]自動車及び自動車産業に係る政府の施策に関すること
    - [2]自動車の基準認証並びに安全技術及び環境技術に関すること
    - [3]自動車及び自動車産業に係る環境保全に関すること
    - [4]交通安全の推進に関すること
    - [5]自動車の流通に関すること
    - [6]自動車の利用環境の改善に関すること
    - [7]自動車の貿易及び自動車産業の国際的なビジネス環境に関すること
    - [8]自動車の材料及び部品に関すること
    - [9]自動車及び自動車産業の電子情報に関すること
    - [10]自動車産業における人事労務、安全衛生、技能振興及び労使関係に関すること
    - [11]自動車産業における知的財産の保護に関すること
  - (3) モーターショー、各種行事の開催並びに関連出版物等の作成及び刊行
  - (4) 前各号に関する啓発、広報活動並びに自動車及び自動車産業に関する理解促進
  - (5) 前各号に掲げるもののほか、本会の目的を達成するために必要な事業
  - (6) 前各号に掲げる事業は、国内又は海外において行うものとする

# 自工会会員企業（OEM14社）

いすゞ自動車株式会社  
川崎重工業株式会社  
スズキ株式会社  
株式会社 S U B A R U  
ダイハツ工業株式会社  
トヨタ自動車株式会社  
日産自動車株式会社  
日野自動車株式会社  
本田技研工業株式会社  
マツダ株式会社  
三菱自動車工業株式会社  
三菱ふそうトラック・バス株式会社  
ヤマハ発動機株式会社  
U D トラックス株式会社

（社名50音順）

# 自工会委員会の体制

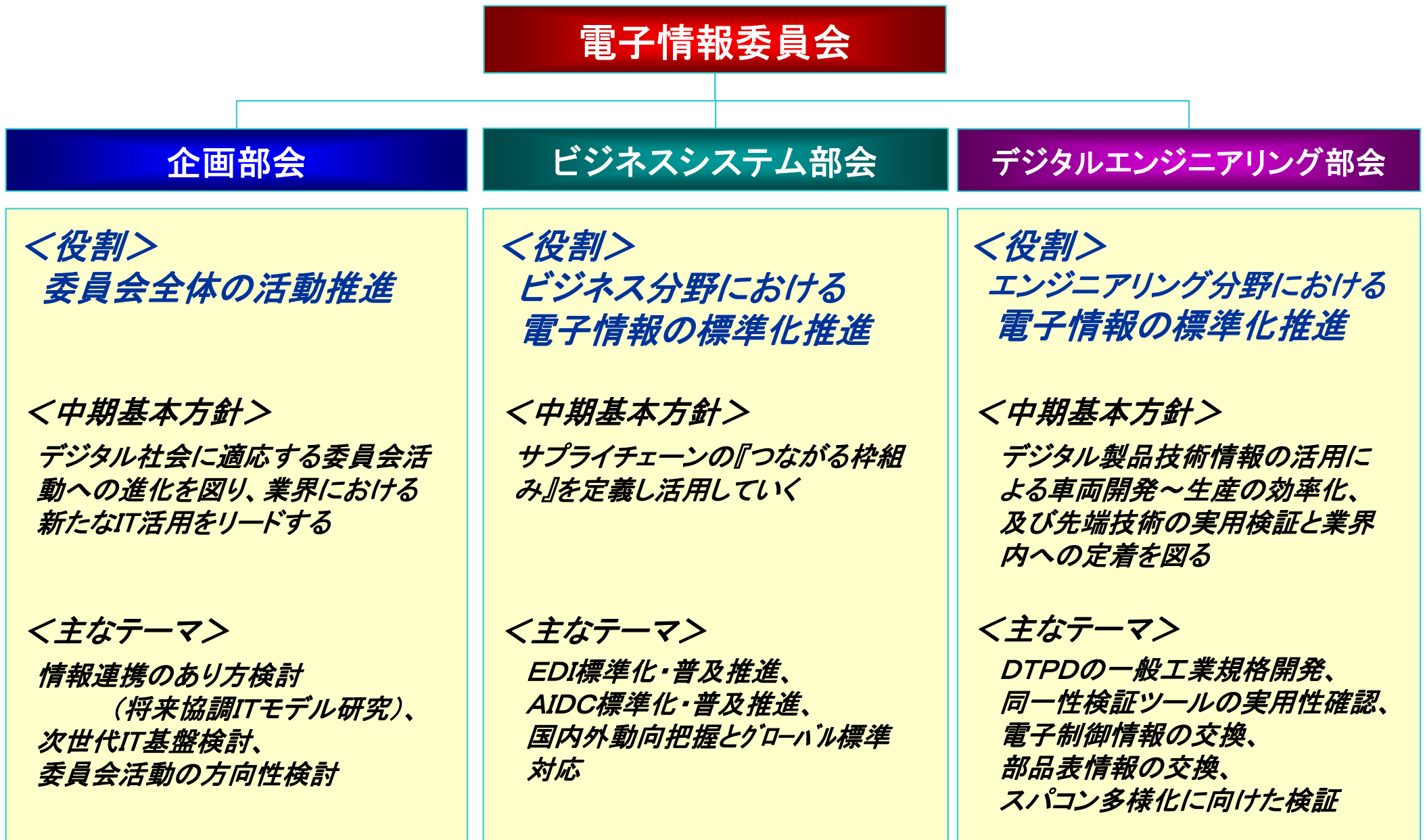


## ■ 歴史

自工会としての情報化・標準化の取組みは1980年代から始まり、1990年代に国内・海外ともにIT活用が活発化するなか、技術データ（CAD）や電子商取引（EDI）をはじめとする電子情報全般に関する業界共通の課題解決の場として発足した。（1998年5月）

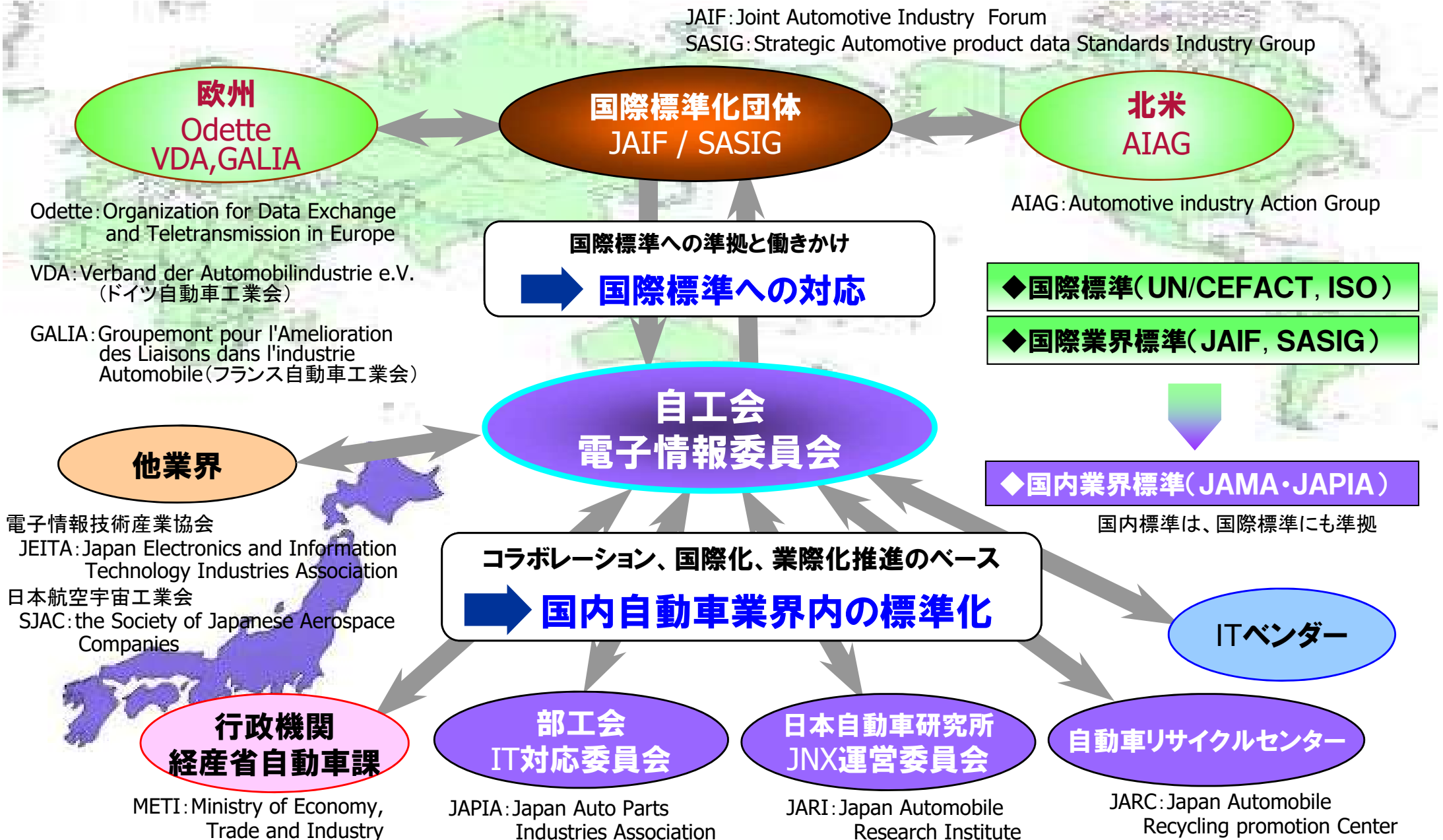
## ■ 電子情報委員会のミッション

「日本自動車工業会 電子情報委員会は、国際的視点をもって、ITの活用を通して自動車工業界の生産性向上に貢献する」





# 電子情報委員会の体制 (国内／国際協調)



# 自動車業界を取り巻く環境認識

## ■ 経済状況

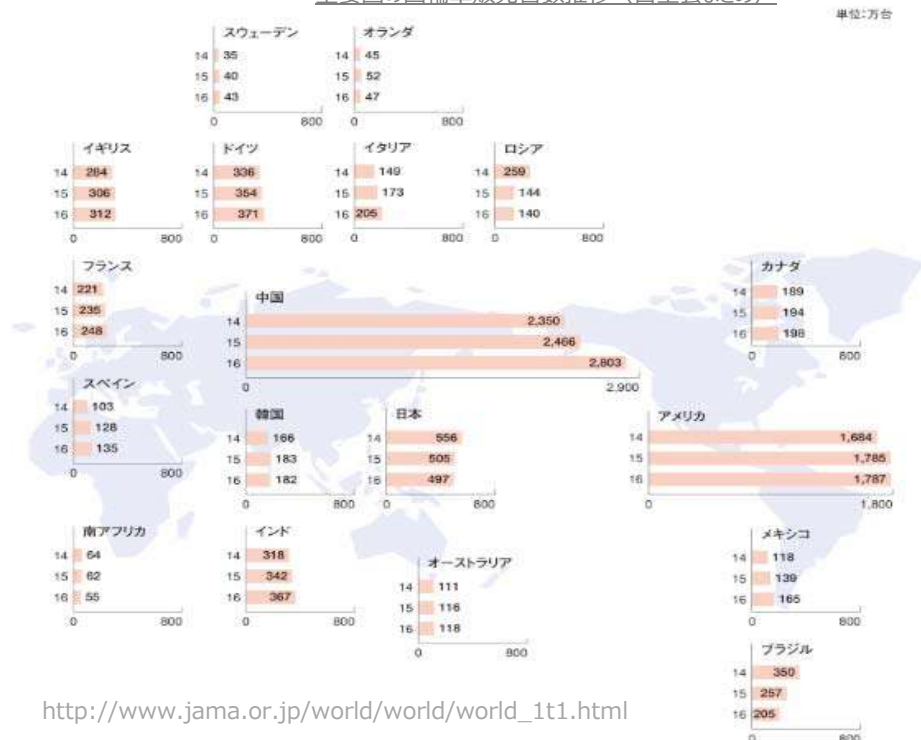
- 全般としては、米中経済の堅調さに支えられて、世界的に景気回復基調にある
- 東アジアや中東に於ける安全保障環境の不安定化、EU Brexit交渉の行方、中国経済の先行不透明感などリスクも多い
- 日本でも、低金利政策の継続や2020オリパラ需要により、景気拡大傾向にある  
但し、所得の伸びが鈍い為、個人消費意欲は依然として低い

## ■ クルマの販売状況（2018年予想）

- 中国：3,000万台達成か
- 米国：1,700万台
- 欧州：1,400万台以上
- 日本：500万台規模を維持

⇒ 引き続き堅調に推移すると思われる

主要国の四輪車販売台数推移（自工会まとめ）



[http://www.jama.or.jp/world/world/world\\_1t1.html](http://www.jama.or.jp/world/world/world_1t1.html)

## ■ 社会構造の変化

- 超高齢化社会、過疎化
- ライフスタイルの多様化（パーソナライズ）
- ネットビジネスの拡大、シェアリング・エコノミーの拡大
- 労働市場の変化、働き方の多様化
- 労働力不足、運送会社のドライバー不足、ものづくり技術・技能伝承の問題

## ■ クルマ社会の変化

- 電動化、コネクテッドカー
- カーシェアリング、ライドシェアリングの拡大、新たな公共交通インフラ整備
- 自動走行、無人化運転による新たなサービス

将来のクルマ社会はどの様になるのか？

自工会モビリティビジョン  
第45回東京モーターショー2017  
～ 2030年のモビリティ社会イメージ ～

## ■ 世界的な第4次産業革命の潮流



Industry 4.0



Industrial internet



Industry of the Future



High Value Manufacturing



Made in China 2025

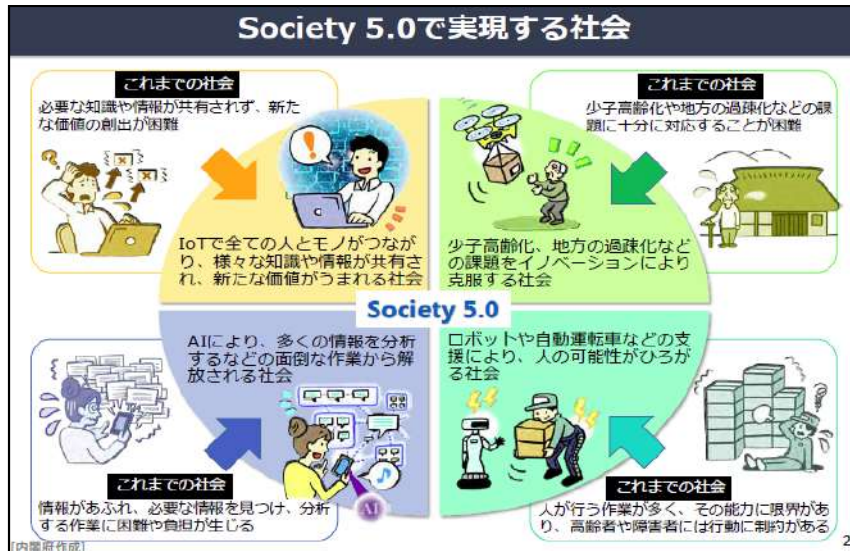


Connected Industries



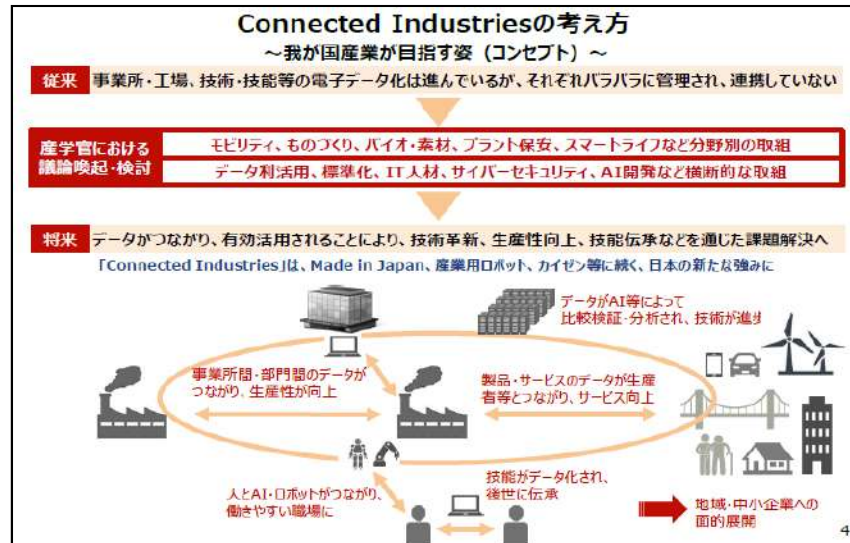
# 自動車業界を取り巻く環境認識 (行政の取組み)

## ■ 内閣府 Society 5.0「科学技術イノベーションが拓く新たな社会」



[http://www8.cao.go.jp/cstp/society5\\_0/society5\\_0-1.pdf](http://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/society5_0-1.pdf)

## ■ 経産省 「Connected Industries」東京イニシアティブ2017



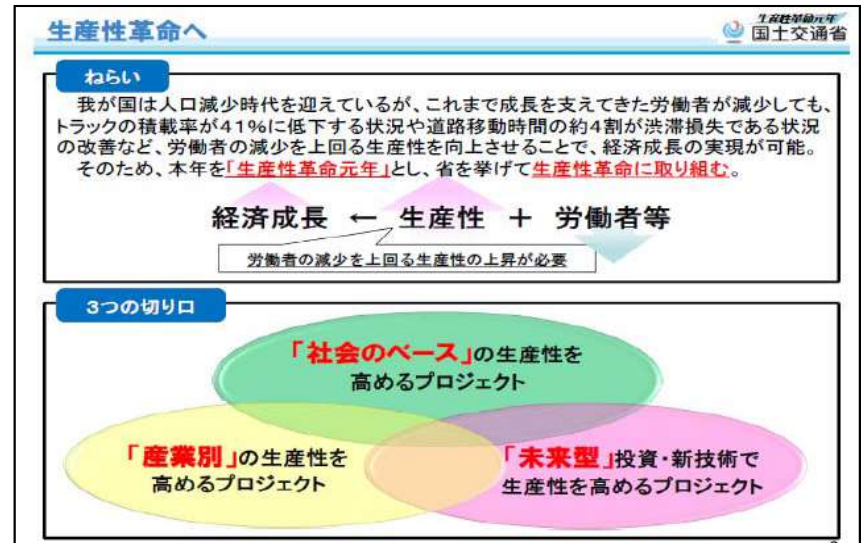
<http://www.meti.go.jp/press/2017/10/20171002012/20171002012-1.pdf>

## ■ 未来投資戦略2017 Society5.0の実現に向けた改革 2017年6月 内閣官房日本経済再生総合事務局



[http://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/minutes/2017/0609/shiryo\\_07.pdf](http://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/minutes/2017/0609/shiryo_07.pdf)

## ■ 国交省 生産性革命プロジェクト



<http://www.mlit.go.jp/common/001133577.pdf>

# 電子情報企画部会の活動方針

## ■ 社会構造、産業構造の変化

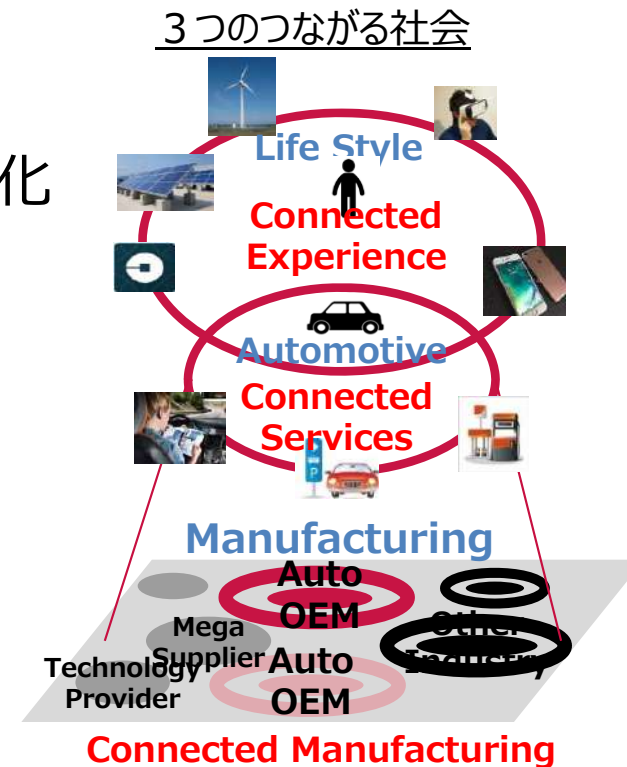
- 超高齢化社会の到来、シェアリング・エコノミーの拡大
- 産業構造の変化、人々のライフスタイルの変化、働き方の変化

## ■ クルマの進化

- 電動化、自動走行、コネクテッドカー、ライドシェアリング

## ■ I T 技術の進化

- IoTの拡大、AIやロボットのビジネスシーン活用拡大



## 中期基本方針

デジタル社会に適応する委員会活動への進化を図り、業界における新たな I T 活用をリードする

- 世の中の動向と、それを実現する技術を研究する
- デジタル社会における新たな情報連携のあり方を提言する



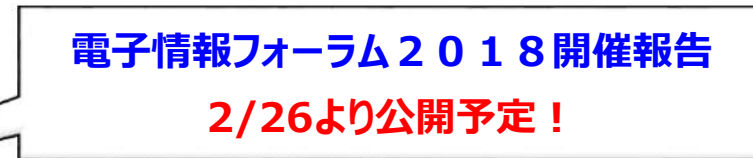
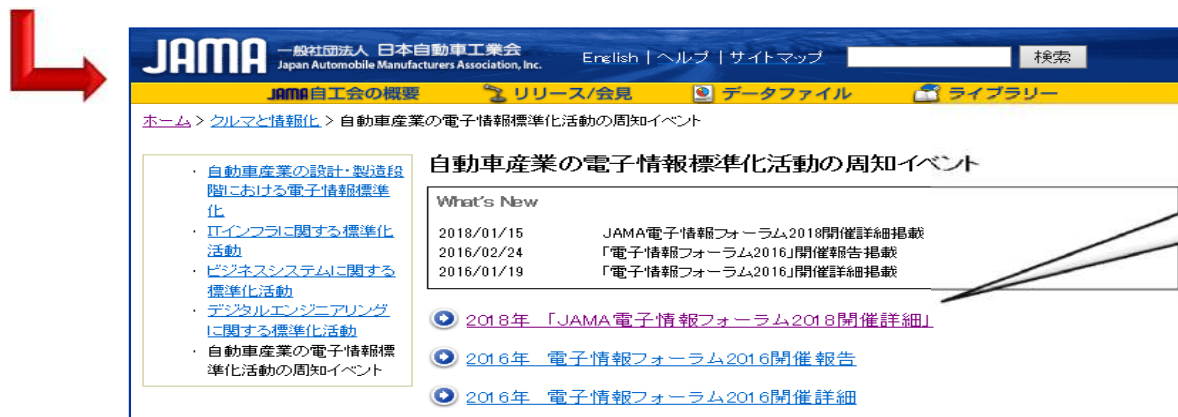
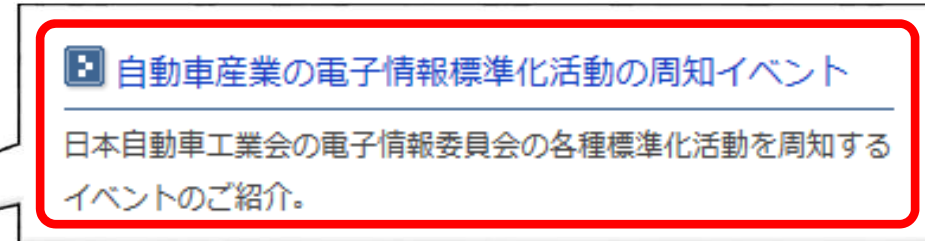
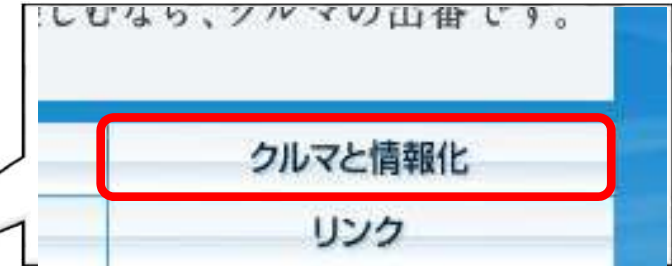
# ご案内

# ご案内 電子情報企画部会 午後のセッション

皆様のご参加をお願い致します！

【午後の部】 電子情報企画部会/ビジネスシステム部会セッション 会場 B1F A会議室	
13:35-13:40 (05)	開 会：電子情報企画部会 副部会長 成瀬 工鎮
13:40-15:35 (105)	将来協調ITモデルの研究結果：将来協調ITモデル研究WG主査 湯浅 康彦  招待講演： PwCコンサルティング合同会社 水上 晃氏 富士通株式会社 鎌田 聖一氏 日本電気株式会社 岡田 勲氏  意見交換 ファシリテーター：O & H株式会社 橋本 航也氏
15:35-15:45 (10)	休 憩
15:45-16:45 (60)	自動車業界におけるRFID活用に向けた標準化活動：AIDC-WG主査 山崎 敏夫  招待講演： 「金属製輸送容器(RTI)用RFIDに関する国際標準化」 (一社)日本自動認識システム協会 金属製RTI用RFID検討委員会推進委員 新海 直樹氏  質疑応答
16:45-16:50 (05)	閉 会：ビジネスシステム部会 副部会長 谷 恵司

http://www.jama.or.jp/index.html



ご清聴ありがとうございました。

引き続きJAMA活動へのご理解とご協力を  
宜しくお願い致します。